城東小学校区　保幼小連携に関する研究

水戸市立城東小学校
水戸市立城東幼稚園
水戸市立城東保育所

目指す幼児・児童像

城　東 小学校	◇生き方を考え自分を律することができる児童 ◇自分も他者も大切にすることができる児童 ◇為すべきことに根気強く取り組める児童
城　東 幼稚園	◇仲良く元気に遊べる子ども ◇思いやりのある子ども ◇最後までがんばる子ども
城　東 保育所	◇健康で豊かな心情をもった子どもを目指して（水戸市内共通） ・遊べる子ども　　・考える子ども ・感性豊かな子ども　　・思いやりのある子ども

※　保幼と小の一貫教育ではないので統一した目指す姿は設定せず，各校・園・所の独自性を尊重しながら，共通した「身に付けたい力」を設定している。

研　究　テ　ー　マ　　有効な保幼小連携を実現する「システム」の在り方
（２年次）　　～「システム」の更なる充実を目指して～

１　主題設定の理由

本研究一年目となった昨年度は，これまでの水戸市における保幼小連携の先行研究で課題として残された「システム」に視点を当て，１年間の連携スタイルを構築してきた。

しかし，幼児・児童についての評価で，保育所と幼稚園の幼児を見取る基準が異なっていたり，活動場所の確保や物品の準備，人材確保，外部機関等との連携がうまくいかなかったりと，様々な環境や条件整備の点で，保幼小連携を有効かつ円滑に推進するための質の面で課題を残した。

そこで，２年目は，１年目に構築してきた連携スタイルを更に充実させて，先行研究で課題となっていた，教職員同士の交流の在り方，業務が多い中での研究・研修の効率化，作成したアプローチカリキュラム，スタートカリキュラムの持続的活用，交流活動の継続実施，保護者の啓発の在り方，打合せ等の時間の確保等について，改善していくことにした。

よって，２年間で完結を迎える本研究では，引き続き「システム」に焦点を当て，どのようなシステムを構築し活用すれば，保幼小連携が着実かつ有効に実施され，目指す幼児，児童の育成を実現できるかについて明らかにしていくことにした。

２　研究のねらい

次の３点を目指すための「保幼小連携システム」の在り方の追究を行う。

◎　保育所・幼稚園から小学校への円滑な接続の実現
◎　保育所・幼稚園における保育・教育，小学校における相乗的な教育の質の向上
◎　所在地が離れている保幼小の連携システムモデルの構築

３　具体的な取組内容

（１）１年次の主な取組

○　研究組織づくり
○　研究計画の作成
○　保幼小連携システムの構築及び実践
○　保幼小連携カリキュラム及び評価システムの作成
○　保幼小連携カリキュラムの実践
○　「行動目標達成評価リスト」等による５歳児（年長児）の実態把握
○　１年次の研究の検証

（２）２年次の主な取組

月	内　　容
５月	○　水戸市研究指定校実施計画書提出（幼児教育課へ）（5/23） ○　城東小学校大運動会に城東幼稚園幼児参加（5/26） ○　１年生が城東幼稚園と城東保育所にアサガオを寄贈（5月下旬）
６月	○　生活科「みんなの公園」（6/15）　※保小 ○　保幼交流（6/15） ○　城東小学校入学園・所との連携推進協議会（6/22） ○　城東小学区保幼小連絡協議会（6/22）
７月	○　城東幼稚園夏祭りに城東小学校児童参加（7/7） ○　城東幼稚園の幼児が小学校のプールを利用 ○　園・所の実態調査 ○　教職員の相互参観（所属の校・園・所以外の２箇所を参観）
８月	○　保幼実態調査に関する協議（8/1） ○　合同研修会（8/17） ○　教職員の相互参観（全職員が所属の校・園・所以外の２箇所を参観）
９月	○　保幼交流会・園庭遊び(9/3，5，10，21，25)
10月	○　保幼交流会（10/2） ○　城東保育所公開保育（10/10） ○　公園遊び(10/19) ○　城東幼稚園の幼児が城東小学校児童とともに持久走大会の練習(城東タイム) ○　園庭で遊ぼう(毎週火曜日)　※1年生が昼休みに幼稚園へ
11月	○　城東保育所３歳未満児と３歳児が，城東小学校，城東幼稚園に遊びに来る（11/2） ○　城東小学校５年生と城東幼稚園年長児が５・５交流（11/2） ○　生活科「あきさがし」(11/8)　※保小 ○　体操教室(11/14)　※保幼小 ○　遠足(11/27)　※保幼 ○　城東幼稚園の園児が城東小学校児童と一緒に持久走の練習(城東タイム)
12月	○　城東幼稚園の幼児が城東小学校の持久走大会に参加（12/8） ○　各校・園・所でサケの飼育を始める(12/17)
１月	○　城東幼稚園の園児が城東小学校児童とともに縄跳びの練習（毎週火水金曜日））
２月	○　城東保育所の幼児が城東小学校の校庭利用（縄跳び，　マラソン等） ○　保幼「おまわりさんコンサート」(2/5) ○　保幼実態調査合わせ（2/5） ○　なかよし会①(2/12) ○　城東小学区連絡協議会（2/15） ○　なかよし会②(2/20) ○　幼稚園児がなかよし会のお礼を持参(2/21) ○　城東小学区連絡協議会（2/25）
３月	○　保幼小合同のサケの放流（3/5那珂川） ○　城東小学校に入学予定の幼児在籍の園・所との連絡協議会（個別の情報交換）

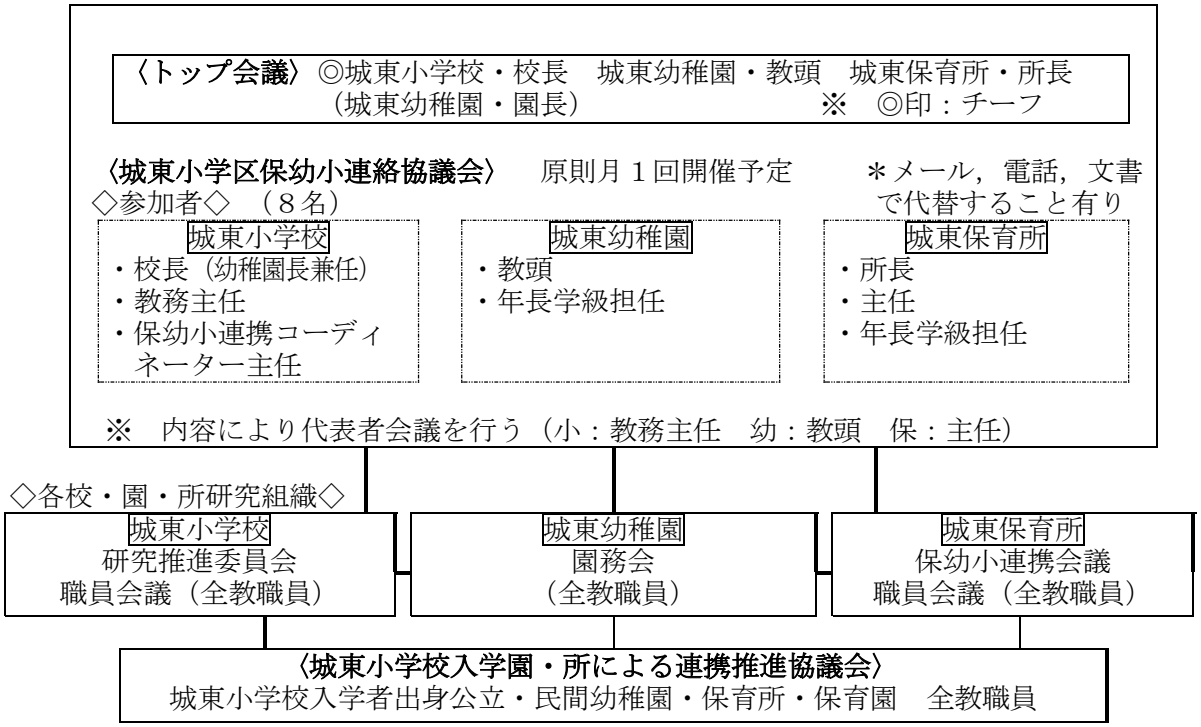
※　上記以外に，城東保育所及び城東幼稚園の城東小学校校庭利用が多数あり，自然な交流が日常的に行われている。

※　交流の機会を捉え，保幼小連絡協議会で昨年度取り扱っていた内容を話し合ったり，情報交換したりするなどして，時間の確保に努めている。

（３）連携活動の実践

①　連携システムの分類・整理

Ａ　連携・協働システム（組織　連絡・調整　情報交換）



Ｂ　カリキュラム運用システム（ＡＣ，ＳＣ，時間の弾力的設定，教科・領域の関連）

２年次の取組の中から，２つの事例を紹介する。

（ａ）保育所における公開保育（平成 30 年 10 月 10 日）

保育者や友達，異年齢児の関わりを深める中で思いやりの気持ちや友達と協力することなどを育むために，「運動会で経験したことを幼稚園児と一緒に楽しんだり，温かい雰囲気の中で未満児と触れ合ったりする」ことをねらいとして，幼稚園児を迎えて公開保育を行った。

２年間の交流を通し，グループ活動を行い，幼稚園児と協力し合った遊びを経験した。幼稚園児と未満児との交流では，やさしく関わったり気持ちを委ねたりする姿を交流の成果と捉え，保育者や幼稚園児，異年齢児との関わりがより深まるよう，小さい子とどのように関わったら楽しめるか年長児を中心に考えを出し合い，子どもたちの「やってみたい」「あそびたい」という思いを組み入れて交流がもてるようにした。当日は未満児も含めて活動し，友達となかよく集団遊びをすることとし，それぞれの職員が参加し，交流を見取った。公開保育では，幼稚園児を含めた異年齢の交流は自然な関わりがみられ，これまでの交流の積み重ねが感じられた。友達と協力したり，なかよく集団遊びをしたり，考え工夫しながら遊ぶことは，保・幼で共通の目標となる「身に付けたい力」となることが確認できた。

（ｂ）小学校における児童の生活科授業　単元「もうすぐ２年生」（平成 31 年２月 13 日実施）

この単元では，自分の成長を振り返り，支えてくれる人々へ感謝の気持ちをもつことを目指している。また，自分たちの小学校での生活を幼稚園や保育所の年長児に伝えるというコミュニケーション活動を通して，さらなる交流への意欲が高まることをねらいとしている。

１年生はこれまで，生活科や学校行事，休み時間の遊びなどを通して，園児との交流を行ってきた。さらに，校内では，上の学年との交流も楽しめるようになったことで，「２年生になったら新しい１年生にいろいろ教えてあげたいな」という年下の友達と関わる期待や意欲が高まるようにした。

授業は，第１回のなかよし会を終えた後に，教えてあげた昔遊びについて活動の様子を振り返り，相手が園児であることを考えて，２回目のなかよし会へ向けての活動がさらに分かりやすく楽しいものになるように教え方や伝え方を試行錯誤する，というフィードバックを生かす形態にした。遊びを通した交流も普段から密に行っていた経験も生かされ，児童は園児の実態に沿った活動計画を工夫し，時に修正しながら，本時では自信をもって園児をリードすることができ，楽しいひと時となった。後日，園児からはお礼の手紙が届き，児童にとって嬉しいサプライズとなった。相手意識をもち，計画や準備をしてきたことが喜ばれたことで，進級への意欲を高めるだけでなく，自分の成長に気付いた児童も多くいたことが，活動後の振り返りで分かった。また，幼児にとっても，小学校の様子を知ったり，他の保育所，幼稚園の友達とふれ合う機会をもったりしたことで，「小学校って楽しいな」，「早く１年生になりたいな」という期待感をより高めることにつながった。

C　評価システム（連携活動の評価，児童・幼児の評価）

実態調査票を活用した見取りの例として，各所・園の実態調査結果のまとめを紹介する。

（ａ）　城東保育所の実態調査の読み取り

身に付けておきたい生活習慣は概ね身に付いている。

「⑪友達と協力する」「⑫友達となかよく集団遊びをする」は，ルールのある遊びや異年齢児との関わりの中から，お互いのよさや特性に気付き，子ども同士がイメージや思いをもって交流し合い，友達関係を形成することができている。「⑱深く知ろうとしたり，試したり確かめたりする」は，興味のあることを更に深く考えようとする働きかけが足りなかったと考える。「⑮文字や数に興味をもつ」は，生活や遊びの中から文字や数字に触れ，また，小学校への期待が次第に高まっていることから伸びたと考えられる。

この調査から，子どもたち一人一人の姿を確認できたことで課題がみえ，保育者がどのように関わって就学を迎えればよいのかがより明確になった。

城東［　　］児童・園児実態調査票

★ できるものに○，できないものに△を記入する（複数職員で評価する）

児童・幼児氏名		記入者		
内容・項目 ＼ 調査実施日		７／	１２／	３／
①自分で着替えや食事，排泄（トイレ）をする				
②健康や安全に気を付けて生活する				
③あいさつや返事をする				
④身辺の片付けやそうじをする				
⑤きまりや約束を守る				
⑥よいことと悪いことを考えて行動する				
⑦時間を守る				
⑧決められた時間席に着いている				
⑨自分の思いや考えを言葉で伝える				
⑩人の話をよく聞く				
⑪友達と協力する				
⑫友達となかよく集団遊びをする				
⑬自然（動植物）とすすんでふれあう				
⑭考え工夫しながら遊ぶ				
⑮文字や数に興味をもつ				
⑯絵や音楽を楽しむ				
⑰本や絵本をすすんで読む（見る）				
⑱深く知ろうとしたり，試したり確かめたりする				
⑲すすんで運動をする				
備考・メモ （特記事項があれば記入）				

＊対象は小学１年生と年長学級幼児　　＊７月，１２月，３月の３回，調査を実施して変容をみる

（ｂ） 城東幼稚園児童・園児実態調査の読み取り

基本的生活習慣においてはあまり変わらず，身に付いている子は変わらず取り組めている子が多く，できていない子は支援を要している。また，生活に慣れてきた頃から，以前できていた身の回りの片付けなどができなくなっている子が多くおり，今後生活の見直しをしていく必要を感じた。

一学期，自己中心的に活動してしまう子が多い傾向があったが，二学期の結果では「⑪友達と協力する」「⑫友達と仲良く集団遊びをする」の項目が上がっている。この結果から，子どもが自分だけでなく，他者を意識して生活することができるようになってきていることが分かる。また，「⑲すすんで運動する」の項目が上がっている。これは友達同士の関わりが増えた中でルールのある遊びを楽しむことが増えたことからだと考える。しかし，「⑨自分の思いや考えを言葉で伝える」「⑩人の話をよく聞く」という点はあまり変化が見られず，今後子ども同士の関わりの中で，互いに意見を伝え合う機会を設け，友達の思いに気付いたり，友達から受け入れてもらえる喜びを知ったりできるよう関わっていきたい。

「⑮文字や数に興味をもつ」では，子どもたちが就学を楽しみにしている様子からも納得できる結果であり，今後も学校生活に期待をもって就学を迎えられるようにしていきたい。

D　研修システム（教職員の意識改革，理解促進等）

（ａ）合同研修会の実施

・職員同士の関係づくり
・課題の共有

（ｂ）相互参観の実施

・施設，環境の相互理解
・子どもたちの実態把握

E　環境整備システム（連携を円滑に進める環境・条件整備　外部人材活用・他機関との連携　情報発信　予算・会計等）

（ａ）小学校施設の活用

・幼稚園給食体験
・持久走の練習

（ｂ）外部人材活用（平成 30 年 11 月 14 日実施　小学校での保幼小合同体操教室の例）

所在地が離れている各所・園・校で，それぞれ別に行っていた体操教室を合同で行った。環境整備システムにより日程を調整し，外部人材（体操講師）を有効に活用することができた。大きな体育館で大勢の幼児・児童と体操教室を行う事は，園児にとっても大きな成果が見られた。小学生にリードしてもらうことにより，憧れの気持ちやもっと上手くなりたいという目標が芽生えた。また，小学生にも年下の子への気遣いや思いやりの気持ち，更なる上達への向上心が芽生え，相乗的な質の向上が見られた。大勢で行うことで，自分だけでなく友達を認めるよい機会となり，少人数では難しい跳び箱を使ったリレーも，互いに競い合いながら楽しむこともできた。1 年生との活動に参加できたということが，幼児の自信にも繋がり，より就学への思いも高まったように思う。

それぞれの子どもたちと関わることによって，運動能力の実態を把握し，理解を深めることができたことや，他の教職員の子どもへの関わり方を学べたことは，評価システム・研修システムにも繋がったと思われる。

４　成果と課題

（１）成果

保幼小連携推進に必要な業務を５つのシステムに分類・整理することで，連携を円滑かつ効果的に推進することができた。

A　連携・協働システム

基本組織が明確になったことで保幼小連携が円滑になり，連絡協議会での案件を，部分的に代表者会議で扱うようにするなど，運用自体も効率的になってきた。

B　カリキュラム運用システム

各校・園・所ごとに，それぞれに実態，特性を生かした活動を行い，水戸市版アプローチカリキュラム，スタートカリキュラムを修正しながら実施できた。保育園・幼稚園から小学校への円滑な接続に有効であったと言える。

スタートカリキュラムの中に，児童の発達に即した幼児教育のよさを生かした活動を取り入れているので，児童が主体的かつ，意欲的に取り組めるものになっている。

小学校では，教科・特別活動・道徳・総合的な学習の時間等として，継続的に保幼小連携に係る活動として挿入し，カリキュラム運営を行い，時間を生み出している。スタートカリキュラム実施対象となる１年生以外の学年も，５・５交流や，２年生との交流をはじめ，業間運動や学校行事など，全校で幼児と関わる機会を多く設定したことで，自然な形で児童と幼児が関わることができた。何度も交流をもつことで，児童・幼児間の触れ合いだけでなく，同じように職員同士の交流も深まり，交流を通して相互理解を深めることができた。改めて，円滑な接続のためにも重要なことだと再認識できた。

C　評価システム

幼児・児童については，保育所，幼稚園が修了・卒園までに身に付けさせたい力と，城東小学校が入学時までに身に付けさせておきたい（身に付けておいてほしい）力を共有し，行動目標として幼児・児童を見取る（評価する）観点とすることができた。昨年の反省を踏まえ，すり合わせを行ってきたことで幼稚園と保育所が同じ目線での評価ができた。

【身に付けさせたい力】

- 自分で着替えや食事，排泄をする
- 健康や安全に気を付けて生活する
- あいさつや返事をする
- 身辺の片付けや掃除をする
- きまりや約束を守る
- よいことと悪いことを考えて行動する
- 時間を守る
- 決められた時間席に着いている
- 自分の思いや考えを言葉で伝える
- 人の話をよく聞く
- 友達と協力する
- 友達となかよく集団遊びをする
- 自然（動植物）とすすんで触れ合う
- 考え工夫しながら遊ぶ
- 文字や数に興味をもつ
- 絵や音楽を楽しむ
- 本や絵本をすすんで読む（見る）
- 深く知ろうとしたり試したり確かめたりする
- すすんで運動をする

D　研修システム

保幼小連携を持続可能なものとするための職員の負担感軽減策として，研修会のもち方を変えたり，回数を減らしたりしたが，連携に関する内容への理解を深めたり，保育・教育の在り方を学んだりするといった目的を損なわず研修できた。

E　環境整備システム

保幼小連携を有効かつ円滑に推進するために整備した様々な環境(活動場所，物品の準備，人材確保，外部機関東等)との連携を，有効に活用できた。

（２）課題

今後も，保幼小連携を継続し，実施していくためには，全職員の取組意識の違いにあまり差が出ないように定期的に関係施設との情報交換の機会をもつことや，誰が担当になってもできる，全職員で連携していく，さらなる体制づくりが大切である。

そのためには，アプローチ・スタートカリキュラムの見直しと共に，実施を積み重ね，さらによりよいものに改善していくことが大切である。また，継続して実施していくためには，研修や情報交換の定期的開催や，交流の際のねらいや目標を明確にして総合的な保幼小交流の年間計画の作成も不可欠である。